

<< 事例 4 >> 金属製品製造業

D社は、食器及び雑貨を製造する約50名の工場ですが、産業医を選任したことを契機に労働衛生コンサルタントに診断指導を依頼しました。

労働衛生コンサルタントは、中断していた作業環境測定を復活させた上で、その結果に基づいて

1. 安全衛生管理体制の確立
2. 作業環境のすべてを第1管理区分に
3. 騒音職場の耳栓着用率を100%になどを目標とする改善計画を立てました。

実施項目としては

1. 安全衛生委員会の活性化
 2. 粉じん職場に局所排気装置の増設と定期自主検査の励行
 3. 堆積粉じんの掃除
 4. 騒音職場に「耳栓着用職場」と「第3管理区分」の表示
 5. 騒音教育と耳栓完全着用の励行（工場上司等一時立入り者も着用励行）
- などで、中間及び最終チェックを行いました。

その結果、粉じん職場は第3管理区分から第1管理区分になり、耳栓着用率も100%になるなど目標の全てを達成することが出来ました。